

募集定員の策定について

1 募集定員策定の概要

県立高校と私立高校それぞれの募集定員総数については、公私立高等学校の教育上の諸課題についての相互理解と、本県における高等学校教育の円滑な推進に資することを目的として設置した「三重県公私立高等学校協議会」（以下「公私協」という。）での協議を経て策定しています。

公私協では、「高等学校生徒募集定員に係る公私比率等検討部会」（以下「部会」という。）が令和4年2月16日にまとめた「令和9年度までの募集定員の公私比率等について」（以下「提言」という。）をふまえ協議することとしています。

なお、募集定員総数が策定された後は、県教育委員会と私立高校それぞれが学校ごとの募集定員を策定しています。

【提言の要点】

令和4年3月から令和9年3月までの5年間で、中学校卒業生数が約1,000人減少することが見込まれる中、本県の高校が次代を担う三重の子どもたちにとって魅力ある学びの場であり続けられるよう、公私が切磋琢磨して取り組むことが大切である。今後も中学生の進路保障の観点重視し、県民の理解が得られるよう、募集定員を策定することが求められる。

- 県立高校は、県内の広域にわたり学校を設置し、普通科や専門学科、総合学科を設置するなど多様な選択を可能にしている。私立高校は、設置者独自の建学の精神に基づき、個性豊かで特色ある教育活動を、経営の安定に努めながら展開している。このように、公私で担うべき役割や特性がそれぞれあることから、公私が協調して協議を行って募集定員総数を策定し、子どもたちの選択肢の維持・充実を図る必要がある。
- 地域ごとに中学校卒業生数の増減の状況、県立高校と私立高校の設置数や学校規模、中学生の進路状況などが異なることを勘案すると、各地域の公私比率については、桑名・四日市地域、鈴鹿・津地域、伊勢地域では、県立高校がやや低く、私立高校がやや高くなるように、松阪地域、伊賀地域では、現在と大きく変わらないように策定されることが適切である。（※尾鷲・熊野地域は県立高校のみ）
- その結果、県全体の公私比率については、中学生の進路希望や進路状況などが毎年度変化することから正確に予測することは難しいものの、令和9年度には県立高校が74.0～74.5%程度、私立高校が26.0～26.5%程度となることが見込まれる。

【募集定員策定のスケジュール】

①5月中旬

- ・第1回公私協

中学校卒業者の進路状況および県立高校と私立高校の入学状況等について検証します。

②5月下旬から6月上旬

- ・第2回公私協

県内全日制高校入学見込み人数に対する県立高校と私立高校の募集定員総数について協議します。

③6月上旬

- ・（県立）教育委員会定例会

第2回公私協での協議をふまえ、県立高校の募集定員総数を審議し決定します。

④6月中旬から下旬

- ・（県立）県議会教育警察常任委員会

県立高校の募集定員総数を報告し、公表します。

⑤7月上旬

- ・（県立）教育委員会定例会

各県立高校の入学定員について審議・決定し、公表します。

- ・（私立）各私立高校の募集定員をとりまとめて公表します。

※ 各高校の入学定員については、中学生が自らの進路について考える時間を十分にとることができるよう、県立、私立ともに夏休み前の7月上旬に公表しています。

2 全日制高校募集定員総数の策定

(1) 県内全日制高校入学見込み人数

県内全日制高校入学見込み人数は、県内中学校卒業見込み人数（①）に、全日制計画進学率（②）と流出入率（③）を乗じて算出しています。

例：令和8年度県内全日制高校入学見込み人数

$$\textcircled{1}15,517 \text{ 人} \times \textcircled{2}88.1\% \times \textcircled{3}98.7\% = 13,492 \text{ 人(前年比}\blacktriangle 265 \text{ 人)}$$

①県内中学校卒業見込み人数

- ・毎年5月1日現在の県内中学校に在籍する3年生の生徒数をもとに算出しています。
- ・令和8年3月の卒業生については、令和7年5月1日の在籍生徒数から、前年より201人少ない15,517人と算出しました。

②全日制計画進学率

- ・来春の中学校卒業者のうち、県内外の全日制高校へ進学すると見込まれる割合です。
- ・毎年中学校3年生に実施している12月進路希望状況調査における全日制高校への進学希望者の割合と、実際に全日制高校に進学した実績進学率を用いて、1～3年前の進路希望調査と4、5年前の実績進学率の5か年平均値で算出します。

卒業年月	H30.3	H31.3	R2.3	R3.3	R4.3	R5.3	R6.3	R7.3
12月希望	90.8%	90.6%	90.0%	90.0%	89.1%	88.0%	87.8%	87.6%
実績進学率	89.8%	89.6%	89.2%	88.9%	88.1%	87.2%	86.6%	86.1%
88.1%								

③流出入率

- ・全日制高校進学者の県外への流出や県外からの流入の状況を示す割合です。
- ・県内の公私立全日制高校への入学者数（県外からの入学者数を含む）を、県内中学校から国公私立全日制高校への進学者数（県外への進学者数を含む）で割った値の5年間平均値で算出します。

卒業年月	H30.3	H31.3	R2.3	R3.3	R4.3	R5.3	R6.3	R7.3
流出入率	98.0%	98.4%	98.4%	98.9%	98.5%	98.6%	98.7%	98.6%
98.7%								

(2) 全日制高校募集定員総数

各地域の全日制高校入学見込み人数の増減をふまえ、以下の事項に留意して募集定員総数を策定することとしています。

- ア 提言に示された令和9年度までの各地域の公私比率の方向性をふまえる。
- イ 各地域の全日制高校入学見込み人数の増減に対する募集定員の増減は、基本的に各地域内で対応する。
- ウ 県立は学級編制単位の40人、私立は5人を増減の最小単位として調整する。
- エ 重なりは2桁以内とする。

3 令和8年度募集定員総数

令和7年5月～6月に開催した公私協では、三重県私学協会より公私協に対し、「私立高校の授業料実質無償化という大きな環境変化のもと、生徒と保護者が私立高校を選択する機会が増えることが想定されるため、令和8年度は、私立高校は募集定員総数を昨年度のまま維持することとし、受験生の動向を見守りたい」との申出書が提出され、公私協で協議を行いました。

協議の結果、「令和8年度募集定員総数については、県立高校と私立高校それぞれが、県内全日制高校入学見込み人数が前年度から265人減少すること、生徒の進路保障や県民の理解を得るなど提言の理念を尊重すること、公私協における議論、無償化の影響などをふまえ、令和7年度の各募集定員総数の範囲内で策定する」こととなりました。

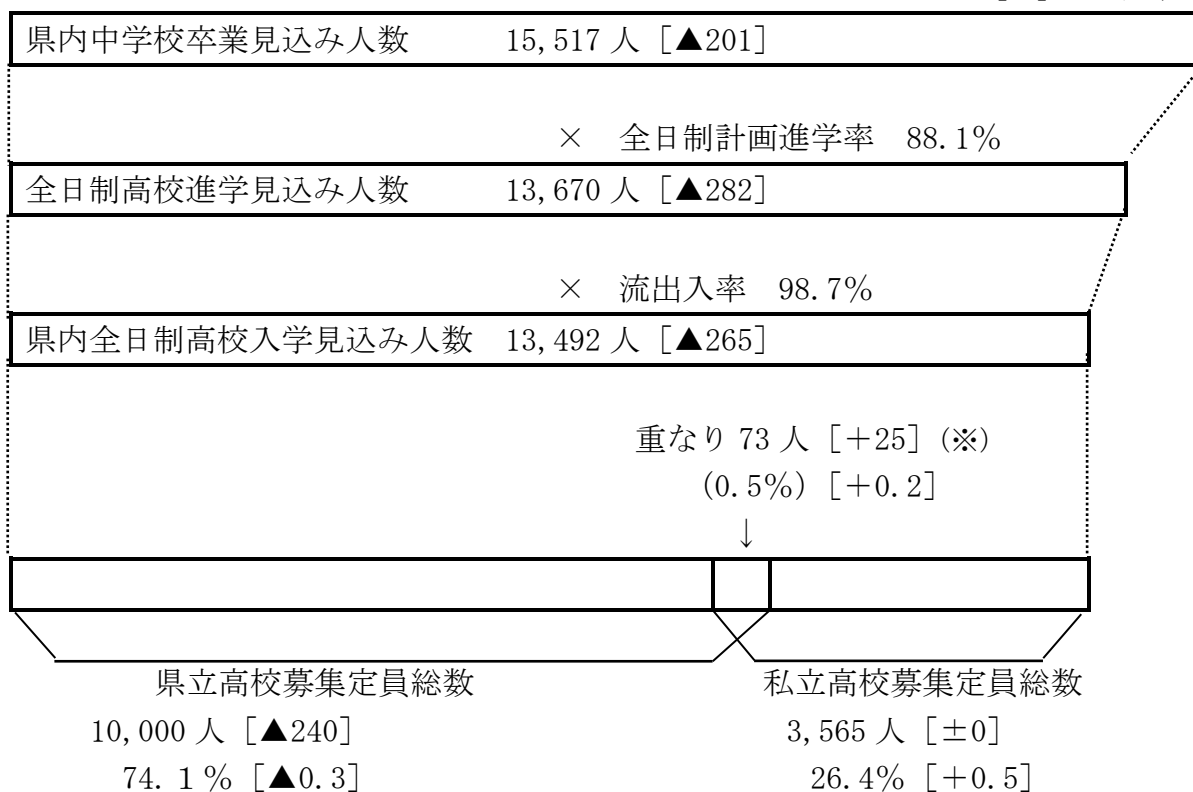
このことを受け、県教育委員会は、令和8年度の県立高校の募集定員総数を、前年度の10,240人に比べ240人少ない10,000人としました。

なお、私立高校の募集定員総数については、三重県私学協会から県へ、令和7年度と同数の3,565人とするとの報告が6月にありました。 参考1

その後、三重県私学協会から県へ、私立高校の募集定員総数が令和7年度より115人多い3,680人になったとの報告がありました。 参考2

令和 8 年度の募集定員総数（策定時）

[] 内は前年比



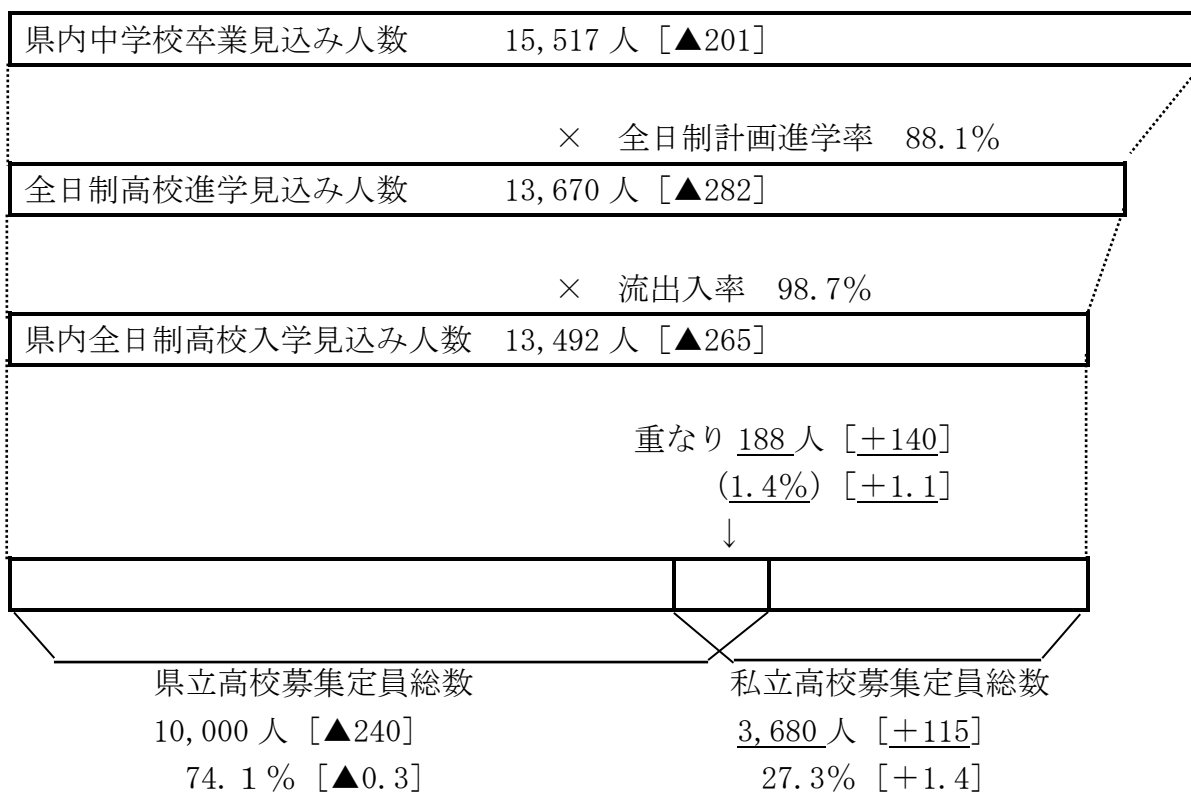
(※) 公私合わせた募集定員総数は、県内全日制高校入学見込み人数よりも一定数多く設定しており、当該分は公私双方の募集定員（重なり）として扱っています。

【県立高校と私立高校の募集定員総数およびその比率】

	令和 6 年度		令和 7 年度		令和 8 年度	
	募集定員(人)	比率(%)	募集定員(人)	比率(%)	募集定員(人)	比率(%)
県立高校	10,440	74.6	10,240	74.4	10,000	74.1
私立高校	3,580	25.6	3,565	25.9	3,565	26.4

※県内私立高校には、青山高校、愛農学園農業高校を含んでいません。

令和8年度の募集定員総数



【県立高校と私立高校の募集定員総数およびその比率】

	令和6年度		令和7年度		令和8年度	
	募集定員(人)	比率(%)	募集定員(人)	比率(%)	募集定員(人)	比率(%)
県立高校	10,440	74.6	10,240	74.4	10,000	74.1
私立高校	3,580	25.6	3,565	25.9	3,680	27.3

※県内私立高校には、青山高校、愛農学園農業高校を含んでいません。